

グリーンボンド / グリーンボンド・プログラム 外部レビューフォーム

セクション1. 基本情報

発行体名:	株式会社住友倉庫
グリーンボンド又は フレームワークの名称	第7回無担保社債
外部レビュー者名:	株式会社 日本格付研究所
本フォーム記入日:	2019年8月9日
レビュー公表日:	2019年8月9日

セクション 2. レビューの概要

レビュー対象

本レビューでは、以下の要素について審査し、グリーンボンド原則との適合性を確認した。:

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金使途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価と選定プロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング |

ROLE(S) OF Independent External REVIEW PROVIDER

- | | |
|------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> セカンドオピニオン | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input checked="" type="checkbox"/> スコアリング/格付け |
| <input type="checkbox"/> その他: | |

注:複数のレビュー、異なる提供者がいる場合、レビューごとに個別のレビューフォームを提供してください。

レビューのサマリー 及び 評価レポート全文へのURLリンク

住友倉庫は1899年創業の大手倉庫会社である。倉庫、港湾運送、国際輸送、陸上運送などの物流事業のほか、東京住友ツインビルディングなど都市部の所有地を活用した不動産賃貸業を営む。現在遂行中の中期経営計画において、国内では、130千㎡程度の倉庫建設・取得を推進し、先進的ロジスティクス技術の導入により効率化を図る方針である。海外では、物流需要の旺盛な東南アジアを中心に施設を増強するほか、国際一貫輸送業務の拡大などを目指している。不動産事業では、首都圏を中心とする新規施設の取得に加え、大阪・南堀江に所有する土地の再開発に取り組んでいる。

住友倉庫は、地球環境の保全が経営の重要課題であるという認識のもと、企業活動による環境負荷を軽減し環境保全に貢献することを目的として2006年に環境方針（6ページ参照）を策定し、倉庫業を中核とする物流サービス業務全般において中長期的な目線で幅広く環境保全への取り組みを行っている。

今回評価対象となる社債の資金使途は、住友倉庫が実施する電力使用量削減プロジェクトおよび再生可能エネルギー発電プロジェクトに対する新規投資とリファイナンスであり、具体的には①空調機器の更新、②照明器具のLED化、③太陽光発電設備の設置の3つである。JCRは資料ならびに当社へのヒアリングから、本プロジェクトによる電力使用量およびCO2排出量の削減効果が大いことを確認した。また、住友倉庫が環境に対して生じうる負の影響に対して適切な回避策または緩和策を講じており、これらのプロジェクトに伴って環境改善効果を上回るような環境への負の影響が発生する可能性が低いことを確認した。以上から、JCRは本評価対象の資金使途となるプロジェクトが高い環境改善効果を有すると評価している。

JCRは、本社債の資金使途となるグリーンプロジェクトへの管理運営体制が確立されており、選定基準および資金管理の透明性が高いこと、住友倉庫の経営陣が環境問題を重要度の高い優先課題として位置付けていることについても確認した。

以上より、本社債についてJCRグリーンファイナンス評価手法に基づき、「グリーン性（資金使途）予備評価」を“g1”、「管理・運営・透明性予備評価」を“m1”とした。この結果、「JCRグリーンボンド予備評価」を“Green 1”とした。

本社債はグリーンボンド原則 および環境省によるグリーンボンドガイドライン において求められる項目について基準を満たしていると考えられる。

評価レポート全文へのURLリンクは以下をご参照。
<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

セクション 3. レビューの詳細

レビュー者は、できる限り以下の情報を、コメントの枠を使用し、できる限り提供することが推奨される。

1. 資金使途

本項目に係るコメント欄：

a. プロジェクトの環境改善効果について

- i. 資金使途の 100%が電力使用量削減プロジェクトおよび再生可能エネルギー発電プロジェクトに対する新規投資およびリファイナンスであり、環境改善効果が高い。

- ii. 資金使途のうち、①空調機器の更新および②照明器具のLED化についてはグリーンボンド原則または環境省のグリーンボンドガイドラインに定義されているグリーンプロジェクトの「省エネルギー」に、③太陽光発電設備の設置は「再生可能エネルギー」に該当する。

b. 環境に対する負の影響について

住友倉庫では、交換前の機器や設備の不適正処理による悪影響については交換前の機器の処理を廃棄物処理法に沿って適切に処理業者に依頼しているほか、廃棄物処理については処理業者の発行するマニフェスト（産業廃棄物管理票）によって処理が適正かつ確実に行われた証跡を取得している。

シンガポールにおける太陽光発電設備は既存の倉庫の屋上に設置されるため、土地造成に伴う生態系への悪影響等はない。また、設置作業は太陽光パネル設置に習熟したゼネコンに発注し、施工に関する事故等のリスクを十分に管理している。

以上より、JCRは住友倉庫が環境に対して生じうる負の影響に対して、適切な回避策または緩和策を講じていると評価している。

GBPにおける資金使途の分類：

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 再生可能エネルギー | <input checked="" type="checkbox"/> エネルギー効率 |
| <input type="checkbox"/> 汚染防止及び管理 | <input type="checkbox"/> 生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理 |
| <input type="checkbox"/> 陸上及び水生生物の多様性の保全 | <input type="checkbox"/> グリーン輸送 |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源および廃水管理 | <input type="checkbox"/> 気候変動への対応 |
| <input type="checkbox"/> 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス | <input type="checkbox"/> グリーンビルディング |
| <input type="checkbox"/> 発行時点では明らかでなかったが、現時点においてGBP分類に該当することが予想される、または、まだGBP分類に含まれていないが適格グリーンプロジェクト分野と思われるもの | <input type="checkbox"/> その他 |

GBP以外のタクソミー（プロジェクト分類）を使用している場合はそれを特定すること。:

2. プロジェクトの評価と選定プロセス

本項目に係るコメント欄：

住友倉庫は資金使途について、明確な環境面での目標、プロジェクトの選定基準およびプロセスを定めている。
当該事項は、JCRによる評価レポートの中で開示されている。

評価と選定

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体の環境面での持続可能性に係る目標が定められている | <input checked="" type="checkbox"/> 対象事業が選定基準分類に適合していることを決定するプロセスが文書化されている |
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンドの資金使途としての適格プロジェクト基準が定義され、透明性が確保されている | <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施に伴うESGリスクの可能性が特定され、管理されるプロセスが文書化されている |
| <input checked="" type="checkbox"/> 事業の評価と選定基準の概要が公表されている | <input type="checkbox"/> その他 |

責任及びアカウンタビリティに係る情報

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 評価・選定基準は外部からのアドバイスまたは検証を受けている | <input checked="" type="checkbox"/> 社内で評価している |
| <input type="checkbox"/> その他 | |

3. 調達資金の管理

本項目に係るコメント欄：

- a. 本社債で調達される資金は、充当計画に従い2019年度から2021年度にかけて電力使用量削減プロジェクトおよび再生可能エネルギー発電プロジェクトに対する新規投資およびリファイナンスに全額が充当される予定であり、これ以外の目的に充当される予定はない。
- b. 本社債で調達される資金は、経理部が内部管理システムを用いて追跡管理を行う。対象となるプロジェクトにかかる費用は、支払いが発生した都度、経理部に報告される。経理部は調達した資金と使った費用を記録し、保存する。これらの内容については月次で経理部長あてに報告が行われる。
- c. 本社債で調達される資金の追跡管理については監査部による監査対象となっており、内部統制が図られている。資金調達に関する書類の保存は住友倉庫が定める文書規程に基づいて実施され、本社債の償還までの期間、証拠となる文書等が適切に管理される。

調達資金の追跡管理：

- | |
|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンドの調達資金は分別管理され、または適切な方法で発行体によって追跡管理されている。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 未充当資金の一時的運用方法について、開示されている。 |
| <input type="checkbox"/> その他 |

追加開示事項：

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 新規投資への充当のみ | <input checked="" type="checkbox"/> 既存・新規投資両方への充当 |
| <input type="checkbox"/> 個別の支出に充当 | <input type="checkbox"/> ポートフォリオベースの支出に充当 |
| <input type="checkbox"/> 未充当資金のポートフォリオバランスを開示 | <input type="checkbox"/> その他 |

4. レポーティング

本項目に係るコメント欄：

a. 資金の充当状況に係るレポーティング

住友倉庫は、調達資金の全額がグリーンプロジェクトに充当されるまでの間、資金充当状況について年1回、ウェブサイトにて開示予定である。プロジェクトの延期や中止といった大きな資金状況の変化が生じた場合、住友倉庫は本社債で調達した資金を他の適格プロジェクトに充当する。住友倉庫はそうした充当計画に大きな変更が生じた場合、充当の前後に関わらず、ウェブサイトにて適時開示を行う予定である。

b. 環境改善効果に係るレポーティング

住友倉庫は本社債が償還されるまでの間、環境改善効果について年1回、以下の指標をウェブサイトにて開示予定である。

- ・各グリーンプロジェクトの概要（進捗状況を含む）と充当した資金の額
- ・空調機器および照明器具を更新した設備数、空調機器等の更新台数
- ・適格グリーンプロジェクトにより削減された電力使用量およびCO2排出量（理論値に基づく年間総量）

資金使途のレポーティング：

個別プロジェクト・ベース

プロジェクトのポートフォリオ・ベース

個別債券への紐づけ

その他

レポーティング情報：

充当金額

投資額に占めるグリーンボンドによる資金充当の割合

その他：

頻度：

年に一度

半年に一度

その他：

インパクトレポーティング：

個別プロジェクト・ベース

プロジェクトのポートフォリオ・ベース

個別債券への紐づけ

その他

頻度：

年に一度

半年に一度

その他：

レポーティング情報（理論値または実績値）：

GHG 排出量 / 削減量

エネルギー削減量

水使用削減量

その他ESG指標

開示方法

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 財務諸表における公表 | <input type="checkbox"/> サステナビリティレポートにおける公表 |
| <input type="checkbox"/> アドホック（非定期）刊行物における公表 | <input checked="" type="checkbox"/> その他：
ウェブサイトにおける公表 |
| <input checked="" type="checkbox"/> レポーティングの外部レビュー | |

有用なリンク

住友倉庫のCSRに係る取り組み	https://www.sumitomo-soko.co.jp/corporate/csr/index.html
JCRのグリーンファイナンス評価手法	https://www.jcr.co.jp/greenfinance/

外部レビューを受けた場合、その種類

- | | |
|-------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> セカンド・オピニオン | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input checked="" type="checkbox"/> スコアリング/格付け |
| <input type="checkbox"/> その他: | |

レビュー提供者: 株式会社 日本格付研究所

公表日: 2019年8月9日

グリーンボンド原則に定められた、独立レビュー業者の役割

1. **セカンド・パーティ・オピニオン**：環境に関する専門知識を持ち、発行体から独立した機関は、セカンド・パーティ・オピニオンを出すことができる。そのような機関は、グリーンボンドフレームワークに関する発行体のアドバイザーからの独立性や、情報障壁など適切な手順を機関内に設け、セカンド・パーティ・オピニオンの独立性を保証することが必要である。セカンド・パーティ・オピニオンは通常グリーンボンド原則への準拠に関する評価を伴い、特に、発行体の包括的な目標、戦略、環境に関する持続可能性に関する方針および（または）プロセスおよび資金使途となるプロジェクトの環境に関する持続可能性の評価が含まれる。
2. **検証**：発行体は、ビジネスプロセスに関するおよび（または）環境基準についての設定された基準に関する第三者検証を受けることができる。検証は内部または外部基準または発行体による目標に沿っているかにフォーカスする。また、対象資産の環境に関する持続可能な特徴の評価は"検証"と呼ばれ、外部基準を参照することができる。発行体の資金管理、グリーンボンドによる調達資金の配分に関する内部追跡システム、環境へのインパクトまたは、グリーンボンド原則への準拠に関する保証または証明も"検証"と呼ぶことができる。
3. **認証**：発行体は、グリーンボンドフレームワークに関連したグリーンボンドまたは資金使途は、認識されている外部グリーン標準・ラベルの認証を受けることができる。標準またはラベルは、特定の基準を定義し、その定義は認証基準に沿っているかを証明できる能力を有し、認定された第三者機関によって、その基準に沿っているかどうかを検査される。
4. **グリーンボンドスコアリング・レーティング**：発行体は、グリーンボンドフレームワークに関連したグリーンボンドまたは資金使途は、スコアリング・レーティング手法を有している専門調査会社や格付機関といった第三者によって評価もしくは調査されることができる。成果物は、環境改善のデータ、グリーンボンド原則に準じたプロセスまたはその他2度目標などのベンチマークにフォーカスしたものが考えられる。スコアリング・レーティングは、重要な環境リスクを反映しているとしても信用格付とは明確に異なる。